

KANAGAWA HOHYUH CLUB
神奈川放友会
Newsletter



Vol. 6 No.1 JAN.. 2013
第 21 号

神奈川放友会

〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地
ストーク伊勢佐木1番館 501号

TEL 045 681 7573 FAX 045 681 7578

発行人 長谷川 武
発行日 2013年1月15日

本会が刊行した「食と放射線」

神奈川放友会 会長 長谷川 武

本会は、曲がりなりにも二度の出版物を発行しました。第一弾は「医療体制への鼓動」で、2011年5月21日の発行でした。ご承知の如くこの著者は、“検診に携わった技師の記録”を40年間に及ぶ自らの胃がん検診専門技師に至る記録を記したものです。この出版企画は、本会としては大きな賭けでした。何せ、資金ゼロでの企画なので、著者は躊躇していましたし、出版活動は初めての事業でしたので、自費出版への支援が目的でした。

元々偶然にも職場の記念誌に投稿する原稿を、私が垣間見る機会があったのが切っ掛けで、無理を承知の上でお願いし、会活動の起爆剤に賛同して頂いたのです。

第二弾目の「食と放射線」の企画も同様で、本会の発行企画ではありますが、予算無しの無茶な企画でした。但し、出版企画のスタートが異なっておりました。

3.11の東日本大震災に伴う、福島東電第二原発事故の放射能大災害が発生しました。連日の報道により、広い地域に渡り環境の放射能汚染が告げられ、水道水や農産物・水産物等が影響を受けたことを知りました。無論、人体の放射線被ばくによる影響の評価が問題でした。

診療放射線技師である我々は、“原発事故による放射能汚染”の報道内容は容易に理解できたことと思いますが、一般県民には原子力関連の専門用語や放射線被ばくに関する理解に戸惑いがありました。未曾有の放射能災害に出合った国民は、思いの外“風評被害”に見舞われたのです。

報道・情報に対する、国民自らの判断や理解が求められました。この事態を鑑みて、放射線を取扱っている診療放射線技師が、世のお役に立つ機会ではないのかと役員会で話題になりました。また、この頃に県議会議員選挙があり、栄養士出身の合原氏の支援も会の活動の目標でした。幸い合原県議会議員が誕生したので、更なる活動を考えたら、「食と放射線」をテーマにした、栄養士と放射線技師の共同企画が浮上したので、県技師会の参加を試みましたが、「神奈川放友会」では法人格である神奈川県放射線技師会・神奈川県栄養士会との共同企画には発展しませんでした。

従って、考えを同じくする有志の会「食と放射線を考える会」を立ち上げ、神奈川放友会の企画に全面的に賛同して頂き、ことを進めました。

放友会は担当者の活力に支えられて、第一弾の「医療体制への鼓動」は成功しました。売上ではないが“会員の出版”への協力と会運営の支援になった経験から、二度目の成功をもくろみ、組織活動の起爆剤に成ることを夢見て、本会の責任で発行に漕ぎ着けたのです（赤字決算の場合は、担当者が負担するという荒技でした）。

お陰様で第二弾の「食と放射線」も、成功裏に経過しております。但し、この出版物は現在「完売」には至っておりませんが、在庫は数十冊と健闘しております。

会員の皆様、如何なものでしょうか。会としては“身分不相応で危険を伴う無理な活動”をしているのではないかと疑問を投げかけられてもいます。

執行部は疑問を持ちながらも、有志に共同資金を投じて頂き、無理を承知でやって来ました。

偏にご協力を頂いた方々に、厚くお礼申し上げます。

さて、会員の方々は内情を知って如何評価されますか。

有志の方々は“食と放射線の実態を理解する”ために「食と放射線を考える会」を立ち上げ、若干の専門知識を持つ仲間、知識と情報を収集し、それを還元することを目的としておりますので、神奈川放友会は全面協力を誓っております。

振り返ってみると、会の実質的な活動は、①会機関紙の定期発行（神奈川放友会 Newsletter）②イベントの実施（散策・競馬観戦・見学会）③出版本の発行 ④県議会議員選挙への支援 ⑤放射能汚染測定の実施の5項目でした。

年度会費の無い“神奈川放友会”の運営は大変なのですが、理事さんは手弁当持ちで“善意のボランティア”に支えられて、5年間を経て来ました。今後もこの状態がまだ続くものと思われませんが、時に“検討せよ”と声の掛かる「会費の導入」がありますが、この件は考えておりません。現状通り“会員の年度会費無し”を続けて、事業運営で捻出したいものと願っております。

従いまして、会員へのお願いは「イベントへの参加」及び「出版本の購入」にご理解頂き、是非ご協力をお願い申し上げます。

年の始まりに神奈川放友会の理念・哲学を描きながら、会員の“絆”作りに邁進して、神奈川県放射線技師会活動に、何らかの支援が出来ることを夢見ています。

平成25年 新年を迎えるにあたり

「飛べ 神奈川放友会、忍べ日本」

神奈川放友会副会長 橋口 邦 紘

会員の皆様、明けましておめでとう御座います

会員の皆様明けましておめでとう御座います。

希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年も神奈川放友会に対し、更なるご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

昨年日本は、大災害、世界中を巻き込んだ大恐慌、領土問題に直面致しました。

なかでも、北方四島、竹島、尖閣諸島はアメリカの困惑と、ヨーロッパ諸国の冷淡さを強く感じます。日本は早急な解決は期待せず、現状のままで十年間凍結する、睨み合ったまま過ごすのではなく、日本と韓国、中国、ロシアの間で徹底して密な経済関係を築き上げれば、相手側の国民の感情も好転するのではないのでしょうか、民衆の思いが変われば、その思いを無視できない政府も、出方を変えてくるかもしれませぬ。

世界中でカントリー、リスクの無い国はどこにもありません、地震や津波など天災に弱い国、すぐに宗教を旗印に暴力化する国、天然災害は少ないがやたら税金が高い国などきりがありません。

日本はまだ、国力は充分にあります、経済力だけではなく技術力もあり、国民一人一人の意欲も、方向さえ定まれば一致団結する民族ですから。

今日までそうやって、幾多の苦難を乗り越えてきたではありませんか。

二十年近くも、不況、不況と喘ぎながらも、世界第三位の経済力を維持し、世界中の羨望の的になっている国です。

小生が中学生時代に覚えた啄木の短歌、心の奥底に「恐怖」として住み着いた一首、

「はたらけど、はたらけど猶わが生活楽にならざり、ぢっと手を見る」

最近、あれは嘘、啄木は仕事がだっ嫌いな人だったとの解説を読んで、大笑いした、涙が出てきた。50数年の恐怖が吹き飛んだがもう一首ある、それは競馬を始めて突然思い起こした、寺山修司の一首（こよなく競馬を愛し、その著書、語録は今も語り継がれている）

「マッチ擦るつかのま海に霧ふかし身捨つるほどの祖国ありや」

この歌がどうしても消えない、昨今の大災害、大事故、身の回りの不幸につけ頭をよぎる。

こんな時は、「古今ホースマン語録」を思い出して忘れることにしています。

「お金を出す本人の意思があるから競馬は長続きするんで、人の言うとおりに買っても、

面白くもなんともないです」・・・大川慶次郎

「損するから遊びなんですよ。もうけるんだったら仕事になってしまう」・・・浅田次郎

「馬券は理性で買ってはならないと思う。もっと情緒的、感覚的、本能的に勝ち馬を

予想すべきである」・・・阿部牧朗

「何でこんな楽しい学校を出て行くことができようか」・・・清水健太郎

え、去年の成績ですか、

「ひとの財布とセックスは覗かないものです」

・・・吉川良



A HAPPY NEW YEAR



茅ヶ崎市へ「食と放射線」の副読本を寄贈

神奈川放友会が茅ヶ崎市長に面会

昨年の9月は福島第一原子力発電所事故による大気中の放射線量が話題になっていた時期である。神奈川県放射線技師会は2006年10月9日に行われた北朝鮮の核実験の影響が偏西風等により日本が放射能汚染される恐れがあることを想定し、県内14地域の自然放射能の測定を毎月実施してきた経緯があり、この測定値は神奈川県の原子力発電所事故前の貴重な測定値となっている。

この測定値と比較するために事故半年後となる9月に茅ヶ崎市内の公園33箇所、海岸3箇所、防砂林1箇所、神奈川県衛生研究所正門の38箇所157ポイントを測定し、データの解析で忙しい毎日を過ごしていた。

この測定値は「茅ヶ崎市内の公園を中心とした大気中放射線量の測定結果」としてまとめ神奈川県放射線技師会ホームページに掲載した。そしてこの測定結果を茅ヶ崎市長に報告をした。(Newsletter 第17号に掲載) 市長からは「貴重なデータの報告を頂き感謝申し上げますと共に、市民へのお役に立てるよう考慮します。」とのお礼の言葉を頂きました。後日、環境部長から技師会のホームページに掲載されている測定結果に茅ヶ崎市役所のホームページからリンクさせて欲しいとの要望があり、技師会の了解を得てリンクされた。現在でもリンクされており、この測定値が市民の放射線に対する不安の解消につながっているのではないかと思っている。

今年の9月は「食と放射線」の編集作業で忙しい毎日であった。自費出版であるために安い出版社を探し全データをPDFにまとめ、印刷と製本だけを行ってくれる会社を探し発注をした。完成までの期間心配であったが、本が完成し、見たときには予想外の出来栄で安堵をした。



茅ヶ崎市長さんに「食と放射線」を贈呈

茅ヶ崎市では「食品の安全」特に放射線汚染の測定に力を入れており、食品の放射線汚染測定のための測定器を導入し市民に測定を開放している。

昨年、市長からは「今後とも放射線に関する関連の話題に協力をお願いいたします。」との協力を求められた経緯があることから、今回我々が発行した「食と放射線」—放射線と共生するための副読本—を市民に対して「食と放射線」の情報提供として寄贈することを申出たところ、市側は喜んで寄贈を受け入れてくれた。

10月17日(水)14:30 長谷川 武 神奈川放友会会長、「食と放射線を考える会」代表 あいほら康行、共同編集者 上前 忠行・早瀬 武雄と茅ヶ崎市選出県会議員 日下 景子氏で茅ヶ崎市長を訪問しました。

茅ヶ崎市長 服部 信明、副市長 水島 静夫、環境部長 高橋 里幸の3名と市役所応接室で面談し「食と放射線」の副読本を公民館・図書館等に閲覧して市民に対して「食と放射線」に対する情報提供として役立つとお願いしてお渡しした。

昨年10月24日以来1年ぶりの2回目の訪問であり、長谷川会長からの本編集の経過及び趣旨を報告、あいほら代表からは栄養士としての食の重要性等について話をした。服部市長からは「食と放射線」について分かりやすい本であること、市民に対して情報提供をしたいとお言葉を頂いた。

この本が、市民に対して「食と放射線」に対する情報提供として役に立っていただけることを切に期待しているところである。

(報告 早瀬 武雄)



右側より 副市長、日下県議、合原県議、茅ヶ崎市長
神奈川放友会 長谷川、早瀬、上前の各氏

史跡名所 “称名寺と金沢文庫”

平成 24 年度神奈川放友会イベントは、“史跡名所金沢八景と八景島を楽しもう”と言う秋の散策であった。

案外、横浜の南のはずれにある称名寺・金沢文庫は、行ったことがない方が多いのではないかと思います。

平成 24 年 10 月 28 日（日）京浜急行金沢文庫駅の改札口に集合したのは、定刻を 15 分・30 分と待って見たが、男性 4 人でした。イベント企画者としては、誠に残念という気持でした。しかし、当日は天候も悪く小雨が降っていた。

4 人は近くのコーヒーショップに入り、団欒して予定の行動について話し合っ、称名寺と金沢文庫へ向かい、じっくりと称名寺と金沢文庫を觀賞することとした。

徒歩では 10 分程度の道のりなのだが、小雨だったのでタクシーを利用した。

称名寺と金沢文庫は三方を山で囲まれ、池がある静かな庭園がある史跡名所です。



雨の称名寺は何となく風情がありました。赤門(惣門)を抜けると、両側に古木の桜の木が繁った参道、トンネルを思わせ、石畳を境内正門の仁王門に向かった。

称名寺は鎌倉時代に、北条実時が今の称名寺がある場所を別荘として住んでいました。そこに作った持仏堂が称名寺で、金沢北条氏の菩提寺と学問寺として栄えた。

実時の子・顕時(あきとき)、孫の貞顕(さだあき)の時代に称名寺は繁栄しており、仁王像は 1323 年に完成しています。



右側より
小松崎
長谷川
村松
橋口

称名寺境内に入り、池をバックにまずは写真を一枚。

称名寺仁王門をくぐり左側の道に沿って進むと北条実時像があり、更に小坂道を登ると「神奈川県立金沢文庫」へ通ずる 20m 程のトンネルがある。

このトンネル両側の壁に、歌川広重の「金澤八景画図」が飾られてある。じっくりと鑑賞するのも楽しい。



「平潟落雁」
跡とむる
真砂の文字の
数のそえて
しおの平潟に
落ちる 雁がね

金澤八景画図を見るお二人と画に添えられている短歌

金沢八景画図 平潟落雁(上記)

野島夕照(夕日さす 野島の浦の ほすあみの めならぶ里の あまの家いえ) 内川暮雪(木陰無く 松にむ洩れて 暮るとも いざ白雪の みなと江のそら) 称名晩鐘(はるけしな 山の名におう かねさわの 霧より洩るる 入りあいの鐘) 州崎晴嵐(賑わえる 州崎の里の 朝けぶり 晴るる嵐に 立てる市) 瀬戸秋月(よる波の 瀬戸の秋月 小夜ふけて 千里の沖にすめる月かげ) 小泉夜雨(かじまくら とまるも雨も袖かけて なみだふる江の 昔おぞ思う) 乙艦帰帆(沖津ふね ほのかに見しも とる舵の おともの浦に かえる夕波) の 8 枚の短歌付きタイル画が飾られてある。

[金沢文庫]

金沢文庫観覧は有料です。

大人：600 円 65 歳以上：100 円 小中学生：400 円

当日の金沢文庫は、世界遺産登録推進の為の特別展示の催しとなっており、「武家の古都 鎌倉」世界遺産登録推進特別展「鎌倉興隆—金沢文庫とその時代」の開催中でした。何やら、じっくりと觀賞した気がする。

今から 730 年前に北条実時が建てた文庫です。1333 年鎌倉幕府が滅びると、金澤北条氏の菩提寺称名寺が金澤文庫を引き継ぎました。1897 年伊藤博文が大宝院の所に再建しましたが、関東大震災で壊れ昭和 5 年(1930)にあらためて神奈川県が再建しています。

実時は学問を好み、別荘の近くで山を越えたところに、実時が収集した政治・歴史・文学・仏教などに関する貴重書を収めた書籍保管庫がありました。これが、後の金沢文庫の誕生で、今は中世歴史博物館となっています。

兼好法師等の多くの学僧が利用しました。

1333 年に北条氏が滅亡した後は、建立当時の姿を失って行きました。金沢文庫もその時々々の権力者により、貴

重なる資料が持ち出されています。特に徳川家康は、江戸城の富士見文庫に多くの資料を移しました。

金沢文庫の再建には伊藤博文の名前があり、明治3年に称名寺境内に閲覧所が建てられましたが、関東大震災で倒壊したので、昭和5年になって金沢文庫が復興されて、県立図書館として利用されて来ました。

平成2年に新館が完成し、現在は中世文化に関する歴史博物館兼図書館として、称名寺に伝わる美術工芸品や古文書などを収蔵し、県立歴史博物館として運営されています。

[国指定史跡・称名寺境内]

称名寺は金沢山称名寺と称し、真言律宗の別格本山として西大寺末の律院で、本尊には木造弥勒菩薩立像（鎌倉時代：重要文化財）が安置されている。

本寺は、金沢北条氏一門の菩提寺で、北条実時（1224～1276）の六浦荘金沢の居館内に営んだ持仏堂から発した、と推定されています。その後、称名寺の基礎が定まり伽藍の整備がすすみ、実時の子・顕時により弥勒堂・護摩堂・三重塔など、顕時の子・貞顕は伽藍の再造営を行い、苑池を中心として弥勒来迎板絵（重要文化財）に荘厳された金堂・講堂・仁王門など、七堂伽藍を備えた壮麗なる浄土曼荼羅に基づく伽藍を完成させました。

しかし、北条氏の滅亡（1333）により鎌倉幕府の崩壊を契機として、伽藍の維持管理が困難となり、江戸時代に入ると創建当時の堂塔の姿を失っていたが、大正11年称名寺の中心区域が国指定を受け、更に昭和47年境内背後の丘陵を含めた範囲が指定され、昭和62年に庭園苑池（称名寺の庭園は1323年に描かれた重文「称名寺絵図並結界記」によって、伽藍の配置と共に完成時の姿を知ることができた）の保存整備事業が行われています。

次の文章は、境内の立て看板に記されている「称名寺庭園」に関する解説文です。

[称名寺庭園]

称名寺の庭園は、元亨三年（1323）に描かれた重文「称名寺絵図並結界記」によって、伽藍の配置と共に完成時の姿を知ることができます。

庭園は、金沢貞顕の時代の文保三年（1319）から、翌年の元応二年にかけて造られました。

作庭には性一法師が携わり、青磁石を使用した90数個の景石を、なかじまや池の周囲に大量の白砂と共に配置することなどを指示し、その満々と水が注がれた苑池には貞顕から贈られた水鳥が放され、ここに伽藍の美観の要とされる浄土庭園の完成が見られました。

苑池は金堂の前池として、浄土思想の荘厳のために設けられたもので、南の仁王門に入り、池を東西に二分するように中島に架かる反橋と平橋を渡って金堂に達するようになっています。

このような配置は平安時代中期以降盛んになった。

浄土曼荼羅の構図に基づき造られた浄土庭園の系列に

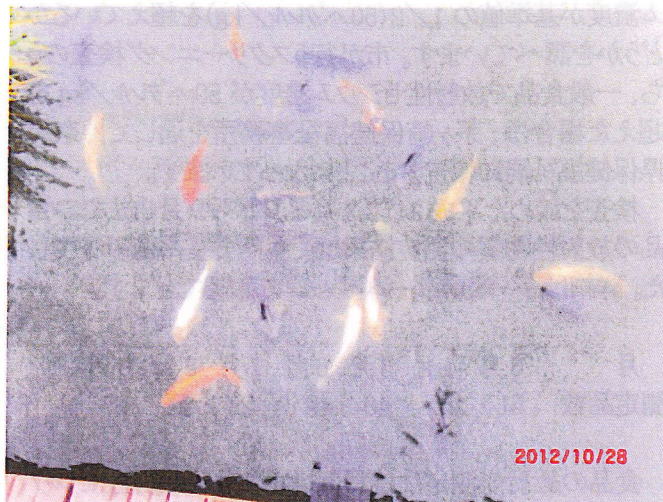
なるもので、称名寺の庭園は、時代的に浄土庭園の基本的な形態を残す景徒のものとして、庭園史上高い評価を得ております。

平成5年3月

横浜市教育委員会
史跡称名寺境内愛護会



金堂を背景にした橋口・小松崎・村松 氏



庭園の阿字ヶ池に飼われている錦鯉が色を添える



阿字ヶ池に彩る反橋と金堂

今回の放友会イベントは参加者が少なかったが、四人は「称名寺・金沢文庫」を堪能できました。

八景島へのコースは省略しました。

(記 : 磯子区 長谷川 武)

茅ヶ崎市における食の安全・安心の確保の取り組みについて

食と放射線の安全・安心への取り組み

茅ヶ崎市長に「食と放射線」の本を贈呈後、茅ヶ崎市における食の安全・安心の確保の取り組みについての対応を市民安全部 市民相談課 久永 静夫課長の案内で見学することができました。

茅ヶ崎市では、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により、食品中の放射線物質が大きな問題となり、食の安全に対する不安が今もなお続いていることを鑑み、こうした不安を感じる市民の皆様が安心して生活が送れるようお持ちいただいた食品や市が購入した食品について、微量放射能濃度測定装置 NaI(Tl)シンチレーション検出器を購入し市民が測定できるようになりました。

厚生労働省が定めた「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」に基づき、流通する一般食品(農産物、水産物、食肉、卵、加工食品など)を対象に放射性セシウム濃度が基準値の1/2(50ベクレル/kg)を超えているかどうかを調べています。市が行うスクリーニング検査のうち、一般食品で放射性セシウム濃度が50ベクレル/kgを超えた場合は、茅ヶ崎保健福祉事務所を通じて神奈川県保健福祉局に報告することになっています。

検査を始めた平成24年3月5日から9月末までの食品の放射性物質の測定結果は、すべて基準値以下でした。詳細は茅ヶ崎市ホームページで確認できます。

月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
測定品数	51	26	46	48	28	14	45

食品の放射能測定には放射性ヨウ素や放射性セシウム等のガンマ線放出核種の測定には通常ガンマ線のエネルギー分解能の優れたゲルマニウム半導体検出器が用いられていますが、装置が高価(一式1500~2000万円)であるために全国で120台ほどの普及しかなかった経緯がありました。

ここに来て「原発災害対策特別仕様」微量放射能測定装置:FNF-401(ヨウ素¹³¹I・セシウム¹³⁴Cs・セシウム¹³⁷Csに特化)が応用光研工業株式会社で製造されており、価格が400万円位であり、全国で100台位の納入がされているようです。この装置が茅ヶ崎市に設置されています。

この装置は、原発事故により「食品・飲料水など」に影響を及ぼす微量放射性核種の放射能測定装置としては唯一の国産品とのことでした。

装置の特徴

検出器にはΦ3"サイズのNaI(Tl)シンチレーション検出器を使用し、検出器からのエネルギースペクトルを計測部にて取得後、データ処理装置により解析演算処理

て放射能濃度を求めます。測定結果はPCに保存されると共に、帳票出力を行うことができます。

- 検出限界 10Bq(ベクレル)/kg(L)までの微量な放射能を測定可能(¹³¹I・¹³⁴Cs・¹³⁷Csに対して)
(検出時間:1,000秒において)
 - 装置の仕様
 - ・NaI(Tl)シンチレーション検出器
 - シンチレータ: 3"×L3 NaI(Tl)
 - ・鉛厚さ: 全て50mm 質量: 240kg
- 2012年01月

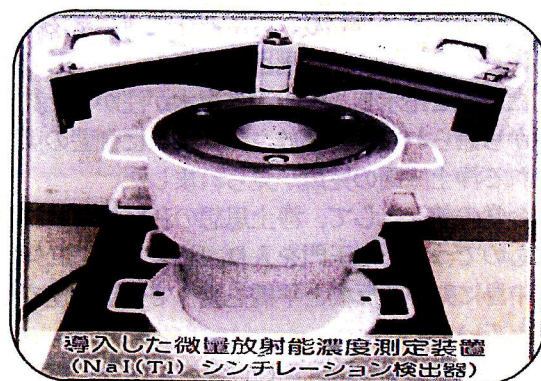
今回は茅ヶ崎市の食品安全への対応についての紹介ですが、詳しくはホームページを参考にしてください。

環境への放射能汚染が食品への汚染につながり、それが体内被ばくの問題となり、国民が不安を感じています。

食品の放射能汚染の測定は、今後益々便利な測定器が開発され食の放射能汚染を見極めることができるようになると思いますが、この様な社会の中で、私たち放射線技師は県民医療の向上及び保健の維持に寄与する目的があり、そのための医療被ばく軽減の取り組みが大変重要であると思います。

医療被ばくは放射線の許容線量に含まれないとされていますが、今、国民が問題にしている環境の放射線量1mSv/年から比べると相当多い医療被ばくを受けています。国民はいつか必ずこの医療被ばくにもっと関心を持つようになるのではないのでしょうか。

いい写真を撮るために放射性医薬品の使用量を多くして問題になったことがありました。X線撮影においても昨今のデジタル化により撮影条件が安易にきめられてしまう傾向があるのではないのでしょうか。撮影条件の適正化による医療被ばくの軽減は積極的に取り組む課題だと思います。医療被ばくの軽減と撮影記録の保存を積極的に考えましょう。



導入した微量放射能濃度測定装置 (NaI(Tl)シンチレーション検出器)

(報告 早瀬 武雄)

新春特集 参考文献

放射線物質汚染の研究

「情報発信わかりやすく」

東京電力福島第一原子力発電所事故から 1 年 8 ヶ月になる。時間の経過とともに、放射性物質による汚染状況がどう変化していくのか、それが農業にどんな影響を与えるのかなど、現場に根ざした研究と、実際にその場に住む人への情報提供が求められている。

今、住民が得ることができる関連情報は、放射性物質が降った場所のモニタリング情報や、食品の放射能測定値だ。確かにこうしたデータは、自分がどれくらい被曝しているかを考える上で非常に重要だ。

しかし、汚染した場所の約 8 割は森林も含む農地である。重機などを用いる除染活動が展開されているが、それと平行して、汚染はどこにあり、どう動いているかという、現場での研究活動が欠かせない。

私たち東大農学部の研究者たちは、農業、畜産業、水産業、野生生物など、自分の専門に応じて実地研究を進めてきた。

その結果、実験室と実際の農地とでは、結果が大きく異なる場合があることが判った。例えば、放射性セシウムを作物がどう吸収するかは、水耕栽培と土を使う栽培では全く異なる。放射性セシウムをよく吸うイネの品種でも、実際の農地で試すと、吸わないことがある。研究室に閉じこもらない現場での研究がいかに重要であるかがわかる。

ほかにも、事故で降り注いだ放射性セシウムは、最初に接触したところに強く吸収され、雨が降ってもほとんど溶けだしてこないことがわかってきた。大半が花粉のように空気中にさらされた面にだけしっかりくっついている。丁寧に表層を集め、穴を掘って埋め、上に土を盛れば、被曝線量は減ると考えられる。

一方、放射性セシウムで汚染された干し草を与えら

れた牛は、搾乳するとミルクから放射性セシウムが検出される。汚染していない飼料を与えると、その値が下がることも判明した。

私たちは、こうした知見をホームページなどで公開しているが、専門的で難解な表現になりがちだ。もっとかみ砕いてわかりやすくし、住民などに情報発信すべきだと思っている。

一方、一般の人々も基礎知識を得ることが大事だと考える。日本の中等教育では 30 年以上にわたって、放射線や放射性物質に関する基本的な知識を与えてこなかった。原発事故によるものだけでなく、私たちの身の回りにはどのくらい自然放射能があり、どう利用されているのかなどを含め、正確な立場から基礎知識として伝える必要がある。

専門家と一般の人をつなぐ活動を進める中で痛感させられるのは、その基盤となる放射線関連の測定ができる人材が、国内では圧倒的に不足していることだ。単に機器を使用して測れば良いわけではない。放射線の種類、測定値の持つ意味などについて、きちんと体系的な知識を持ち合わせた上で測定・評価しなくてはならない。こうした専門家の育成が急がれる。

専門家と一般の人々が、科学的な知識を分かち合うようにすることが、私たちの活動の目標である。

中西 友子氏 東大教授
日本アイトープ協会理事。専門は放射性植物生理学
2000 年、女性科学者に贈られる「猿橋賞」受章

・読売新聞 2012 年 11 月 21 日(水曜日)
論点より引用

放友会からのお知らせ

*平成 25 年総会企画のご案内

本年も平成 25 年度総会を 4 月に企画をしています。

昨年の総会は、日本放射線医学会・日本放射線技術学会の最終日と重なり、参加し易かったのか？

反省会で論議しました。

開催日、会場等、詳細は次号にてお知らせできるように企画準備をしております。

*今年もやります！ 恒例、競馬観戦ツアー 今回は東京競馬観戦！

5 月～7 月のいずれかの日曜日に東京競馬観戦ツアーを計画しております。

詳細が決まりましたらお知らせいたします。皆様ふるってご参加ください！

みんなの広場

秋の叙勲を受章

昨年(2012)の11月、秋の叙勲に際して、本会の会員である元横浜市立市民病院画像診断部技師長であった志田潤治氏(63歳)が、瑞宝双光章を受章されました。

長年の医療業務に貢献した実績が評価され、受章にいたりました。おめでとございました。

求人・求職の情報について

会員より「求職の情報」について問合せが来ています。もし、求人・求職等の情報がありましたら、神奈川放友会メール又は事務所までご連絡下さい。担当者が連絡させていただきます。

出版本の紹介

[神奈川放友会の出版本]

前号にて「発刊のご案内と購読キャンペーン」を紹介しました“食と放射線 ー放射線と共生するための「副読本」ー”の出版本は、本会の2度目の出版物でありましたが、多くの方々から好評を得ました。

お陰様で在庫数も十数冊とわずかになりましたが、是非とも完売にして、本会の運営に役立てたいと願っておりますので、お早めの購入をお願い致します。



編集・執筆 長谷川武早瀬武雄 / 上前忠幸

発行所 神奈川放友会
発行日 2012年9月15日
サイズ A4版 139頁
頒布価格 1000円

購入された方々にお礼申し上げます。

[放射線技師のための臨床業務用語集]

日本放射線技師会前副会長「佐久川 哲氏」(元沖縄県立中部病院放射線技術科技師長)編集の『放射線技師のための臨床業務用語集』が平成23年10月1日に発行されました。

印刷は沖縄コロニー印刷です。

佐久川氏は日放技副会長時、沖縄から全国に飛び回り日放技の発展に貢献して下さいました。

お忙しく会務・業務をこなされる傍ら、この本の編集をしていましたことに対し敬意を表します。

本会理事の早瀬氏にこの本の贈呈がありましたので、御紹介しました。お求めを希望する方は沖縄県放射線技師会宛にお問い合わせ下さい。

[会員訃報のお知らせ]

会員番号 121 佐藤昭夫氏(横浜市立脳血管医療センター)が化膿性髄膜炎で、昨年12月4日に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

**日本放射線技師連盟支部長の選任及び
入会促進のお願い**

平成24年11月30日付で神奈川県放射線技師会窪田宗雄会長より、「日本放射線技師連盟」神奈川県支部長「選出」依頼について(お願い)”の要請がありました。

その旨をお伝えいたします。

「私たちは職能団体としての地位向上と職域拡大を目指して、日本放射線技師連盟を存続し、新しい役員のもと活動を行っています。将来の医療福祉の発展と診療放射線技師の職域拡大のための政策を掲げ、その政策実現に向け政党の枠を超えた超党派で活動をおこないます。その具体的な活動として、中央においては関連する省庁や永田町に足を運び働き掛けをすることはもちろんですが、同時に地方と共同して活動しなければ、組織力ある団体として評価もなければ相手にもされません。

一人でも多くの方日本放射線技師連盟に入会していただき、われわれ診療放射線技師の現場の声を国政に届けていきたいと考えています。

現在、政権与党である民主党のみならず野党に対しても、日本診療放射線技師会と共に要望を叶えるべく、私たちの地位の向上と拡大をめざしています」

上記趣旨より、貴会会長のご協力ご支援により、日本放射線技師連盟支部長の選任をお願いする次第です。

なお、本連盟は、総務大臣ならびに東京都選挙管理委員会に届出を行い、政治資金規正法第6条第1項の適用を受けております。今後とも日本診療放射線技師会の活動に呼応いたしますが、団体として分離して活動して行きたいと存じますので、技師会同様、連盟の活動に対してもご理解とご支援を賜りたいと存じます。

入会の手続き

1. 入会の申込み 所定の入会申込書に記入いただき、ファックスで送信をお願いいたします。
2. 会費 日本放射線技師連盟会費年額1,000円と支部会費500円と合わせて1500円
3. 連絡先 日本放射線技師会連盟事務所：木村由美
〒105-6131 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル31階A
TEL 03-5405-3612 FAX 03-6740-1913
e-mail:kimura@jart.or.jp

★ ★ 編集後記 ★ ★

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。編集担当者も頑張っておりますので、是非、皆様からの投稿をお待ちしております。

今月号はカラー刷りを採用させて頂きましたが、予算が厳しいので毎号とは行きませんので、ご理解をお願いします。どうぞ、忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

編集担当 櫻田 晃 sakurada-houyu@hotmail.co.jp
小嶋 昌光 kojima-houyu@hotmail.co.jp